林静誠理事長 御逝去

故　林静誠理事長

令和4年1月19日、社会福祉法人 清和会　林静誠理事長が御逝去されました。享年84歳でした。そして、1月26、27日、家族葬により船橋斎苑においてお通夜、告別式を執り行いました。

その中で、船橋市長 松戸徹様から心に残る弔辞をいただきましたので、全文ではありませんが、ご紹介させていただきます。

林静誠理事長が詠まれた句
初代理事長が永眠された際
カトレアに　心あずけて　父は逝く
60代半ば
ひたすらに　課題成し遂げ　終わりなむ
晩年
紫陽花の　色濃くなりて　終わりなむ

弔　辞

静誠さんは、社会福祉法人清和会理事長として、また医療法人同和会会長として、更には初代会長を務めた千葉県青少年団体連絡協議会をはじめ、ライオンズクラブ、海洋少年団、自衛隊協力会や警察友の会など数々の団体の長、役員として尽くしながら、船橋市の大きな財産となっているヘイワード、西安、オーデンセ市との姉妹都市交流にも大きな力を発揮していただきました。

特に、先代理事長であるご尊父・清様からの教えをしっかり継承しながら、先駆的な考えをもって、ワールドナーシングホームを拠点として、認知症予防や、今で言う地域包括システムの先駆けとなる取り組みを実践し、形作ってこられたことは、高齢社会の福祉に取り組む船橋市にとっても大きな礎となっています。

静誠さんの残されたご功績は、枚挙にいとまがありませんが、一番の素晴らしさは、多くの人の心を結びつけながら、常に将来を見据え、語った夢を実現していく強さであったと思います。

静誠さんの人生は、まさしく船橋の一つの時代をつくりあげた人生でありました。

私が初めて静誠さんとお会いしたのは、20代の後半、静誠さんは40代半ばであったと思います。

当時から、静誠さんは若い人たちに声をかけてくださり、「これはこうだと面白いよ」「こうなるといいよね」と熱く語りながら私たちの意見を訊いてくれました。

西安市にご一緒させていただいたこと、ヘイワードのジュリアーニ市長や鶴本ご夫妻たちとユーモアたっぷりに楽しく話されていたこと、空挺ラグビーの若い隊員たちをご自宅の庭でバーベキューをしながら励ましていたこと、海洋少年団の子供たちを優しい眼差しで見守っていたこと。いつも施設に入所されている人たちに優しい笑顔で声をかけていたこと……。数々の場面が鮮明に私の心の中に生き生きと残されています。

そして、私が初めて市長選挙に立候補を決めた時、「松戸さん、いい街創るために頑張ろうよ！」と背中を強く押してくれた日のことは、感謝と共に、一生忘れることはありません。

静誠さんはいつも笑顔で周囲の人を気遣う心温かな人でありました。

私を含め施設や病院の職員の皆さんも、自衛隊員の皆さんも、多くの人たちが静誠さんの笑顔と心づかいに励まされてきました。

〝We are not alone〟マザーテレサが残された言葉。「私たちは一人ぼっちじゃない」

30年以上前のWANAニュースには、ひげのある静誠さんの若さあふれる笑顔の写真と共に、静誠さんが大切にしてきた人間愛の理念について記されています。その思いは、生涯変わることはありませんでした。

静誠さん！

静誠さんがこよなく愛した船橋市は、人口64万人を擁する大きな都市に発展しています。こうした人口の大きな市だからこそ、静誠さんが大切にしてきた人を支える心と共に、人と人とがつながり、心をつなげていくことが何よりも大切だと改めて強く感じています。

私は、静誠さんの熱い思いに応えるためにも、数多くの方々のご協力をいただきながら、船橋の発展のため全力を尽くしてまいります。そして、静誠さんの思いを継いだ多くの人たちが船橋の未来のために、力を注いでいただけることを確信しています。

静誠さん！

今、再び相まみえることはかないませんが、静誠さんの残された数々のご功績と思いは、あなたの笑顔とともに私たちの中でいつまでも生き続けていきます。どうか高い空の上から、最愛のご遺族のこと、船橋のまちのことを見守っていて下さい。

静誠さん、本当にありがとうございました。安らかにお眠りください。

心から感謝とご冥福をお祈り申し上げ、お別れの言葉といたします。

令和4年1月26日
船橋市長　松戸　徹

このような心に残る弔辞をいただきました。松戸市長、本当にありがとうございます。

松戸市長の弔辞は、林静誠理事長の人柄、経歴、功績、信念、そして夢を適切に表現され感動を与えるものでした。

永年にわたって、社会福祉法人 清和会を引っ張ってこられた林静誠理事長が突然おられなくなって、私たち清和会職員にとって、その痛手は計り知れないものがありますが、松戸市長もおっしゃっておられるように、きっと高い空の上から私たちを見守ってくれておられると思います。

私たちも、林静誠理事長のあの温かい眼差しを裏切らないように、入所者の皆さんや御利用者の皆さん、そして職員の皆さんを大切にし、引き続き清和会を発展させていかなければならないと思っております。

（清和会広報部）

弔辞を読む松戸徹市長